

つきのわ
月輪

〔今の泉涌寺より南東福寺境内の惣名なり。いにしへ九条殿伝領の地にて、関白兼実公かねざねの山荘、これを月輪殿と

称す。其孫光明峯寺道家公まごくわうみやうぶじみちいへ禅法を信じ、光明峯寺を建て毘沙門天を安置す。旧跡は偃月橋の東即宗院の奥なり。後に聖

一国師を請じて東福寺とうふくじを創して大刹となる。愛宕山の月輪寺ぐわちりんじは後世准へ作れるものなり。月輪禅定兼実公つきのわぜんちやうかねざね愛宕山に住居

し給ふ事、旧記に見えず。又月輪寺ぐわちりんじと音に称じて即ち慶俊法師けいしゆんはふしの開基なり、月輪と地名に呼ぶは今の東福寺の境内のみ〕

東福寺とうふくじ四至文〔寺敷山堺事弘善三年〕限リ東月輪殿堀路通ハ限リ西ハ法性堺ヲ限リ南ハ溪川ヲ限ル北ハ東北院田端ヲ〔弘安三年は

聖一国師遷化の年なり〕